

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地												
専門学校 広島工学院大学校	平成7年6月28日	半明英幸	〒731-3166 広島県広島市安佐南区大塚東3丁目2-1 (電話) 082-848-7780												
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地												
学校法人 古沢学園	昭和62年3月17日	古澤敏昭	〒730-0811 広島県広島市中区中島町9-11 (電話) 082-247-3700												
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士											
工業	工業専門課程	自動車整備科1級自動車整備士コース	—	平成26年文部科学省 告示第84号											
学科の目的	革新する自動車の高性能化、複雑な電子制御技術に対応できる高度な整備技術および、接客対応・環境保全と安全管理の習得をめざし、将来は幹部候補となるべく人材を育成することを目的とする。														
認定年月日	平成26年3月31日														
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技								
4年	昼間	4206.6時間	1198.8時間	—	3007.8時間	—	—								
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内数)	専任教員数	兼任教員数	総教員数										
100人	5人	0人	7人	0人	7人										
学期制度	■1学期: 4月1日～9月30日 ■2学期: 10月1日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 優90点以上・良: 85～89点・可: 80～84点・不可: 79点以下											
長期休み	■学年始: 4月1日 ■夏季: 7月25日～8月21日 ■冬季: 12月21日～1月9日 ■学年末: 3月31日		卒業・進級条件	・出席率95%以上 ・評定に「不可」がないこと ・研修(課外活動)を修了していること											
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 長期欠席・遅刻者については、電話フォロー・個人面談・保護者面談・校長面談実施後、補習を行い再発を防ぐ。生活指導については、健康管理・挨拶・マナー・生活改善等をクラス担任より日常的に指導している。		課外活動	■課外活動の種類 ・江田島研修(国立江田島青少年交流の家) ・三瓶研修(国立三瓶青少年交流の家) ■サークル活動: 有											
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(令和元年度卒業生) 自動車販売会社 ■就職指導内容 ・希望調査(入学時) ・個人面談(進路指導担当者および担任) ・会社訪問指導(担任) ・会社訪問(希望企業) ・三者面談 ・就職セミナー開催(11月) ■卒業者数 : 2 人 ■就職希望者数 : 2 人 ■就職者数 : 2 人 ■就職率 : 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 100 % ■その他 (令和1年度卒業者に関する令和2年5月1日時点の情報)		主な学修成果(資格・検定等)※3 ■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和元年度卒業者に関する令和2年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一級小型自動車整備士</td> <td>②</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>CNG特別講習</td> <td>③</td> <td>3</td> <td>3</td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄	資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	一級小型自動車整備士	②	2	2	CNG特別講習	③	3	3
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数												
一級小型自動車整備士	②	2	2												
CNG特別講習	③	3	3												
中途退学の現状	■中途退学者 1名 平成31年4月1日時点において、在学者6名(平成31年4月1日入学者を含む) 令和2年3月31日時点において、在学者6名(令和2年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 ・学習意欲の喪失 ■中退防止・中退者支援のための取組 ・中退防止 素行・態度等の変化を早めに察知し、声掛け・面談・家庭連絡を密に実施している。また、クラスの状況や学生の状況は職員会議にて共有しており担任・学科長および分掌等が連携し組織的に対応している。 ・中退者支援 経済的問題で退学または進学を断念せざるを得ない場合の就職斡旋。		■中退率 17%												
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 無 ・指定校推薦入試制度(入学金のうち5万円免除) ・入学金免除制度(親族兄弟姉妹:5万円免除)(学園内進学者:全額免除)(電気工事士有資格者:全額免除) ・住居費補助制度(入学初年度:5万円補助) ■専門実践教育訓練給付: 給付対象 ・前年度の給付実績者数 0人														
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無														
当該学科のホームページURL	https://www.furusawa.com/kogaku/														

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

教育課程の編成にあたっては、実践的かつ専門的な職業教育を実施するため、教育課程編成委員会での審議を通じて示された企業等の要望・意見を十分に活かし、教育内容の工夫・改善を行う。

- ・自動車業界の現状・将来展望など動向を常に把握する。
- ・学校教育(授業内容)と企業におけるOJT等の格差を調査、把握する。
- ・企業等との連携により常に新しい情報を入手し、企業ニーズを反映した授業内容とするための改善をする。
- ・最新の実習車両や教材(外部診断機等)を使用する講習(実習)を実施する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は、企業と専門課程の各学科が連携し組織的に運営する。派遣授業については、企業等へ相談(伺い)し、授業内容・日時・実施要領など打合せを行う。それを学科内で検討し教育課程を編成する。再度、企業等と打合せを行い実施する。派遣授業(技術講習等)については機会があれば積極的に企業へ相談し、実践的かつ専門的な教育が出来るようカリキュラムの編成に務める。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和2年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
中川 浩之	一般社団法人 広島県自動車整備振興会	平成31年4月1日 ～令和3年3月31日(2年)	①
屋地元 勝己	トヨタカローラ広島株式会社	平成31年4月1日 ～令和3年3月31日(2年)	③
佐藤 岳史	広島トヨタ自動車株式会社	令和2年4月1日 ～令和3年3月31日(1年)	③
矢野 博之	広島トヨペット株式会社	令和2年4月1日 ～令和3年3月31日(1年)	③
和田 浩太郎	株式会社広島マツダ	令和2年4月1日 ～令和3年3月31日(1年)	③
福江 達之	広島三菱自動車販売株式会社	令和2年4月1日 ～令和3年3月31日(1年)	③
的場 浩二	広島スバル株式会社	令和2年4月1日 ～令和3年3月31日(1年)	③
小松 伸幸	株式会社スズキ自販広島	令和2年4月1日 ～令和3年3月31日(1年)	③
占部 賢一	ダイハツ広島販売株式会社	令和2年4月1日 ～令和3年3月31日(1年)	③
山本 啓二	広島日野自動車株式会社	令和2年4月1日 ～令和3年3月31日(1年)	③
二村 貴久	二村自動車株式会社	令和2年4月1日 ～令和3年3月31日(1年)	③
森岡 真也	株式会社サコダ車輛	令和2年4月1日 ～令和3年3月31日(1年)	③
半明 英幸	広島工学院大学校 校長	平成31年4月1日 ～令和3年3月31日(2年)	
錠本 光照	広島工学院大学校 副校長	平成31年4月1日 ～令和3年3月31日(2年)	
赤木 大作	広島工学院大学校 自動車整備科学科長	平成31年4月1日 ～令和3年3月31日(2年)	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (9月、3月)

(開催日時(実績))

第1回 令和元年9月20日 14:30～16:00

第2回 令和2年3月6日 14:30～16:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況
 ・学生とのコミュニケーションの取り方について
 ・ここ数年、作業ミスなどを振り返らない新入社員が増えている、失敗に関しての対応の仕方、報告する事の勇気なども教える必要があると思われる。
 SNSの普及に伴い、対人コミュニケーションの仕方がわからない学生が増えていることは承知している。学科の知識や技術だけではなく、社会人としての規範を教え、コミュニケーションが苦手な学生には職員が積極的に話しかけるようし、コミュニケーション能力の向上を図っている。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針
 ・校内で実施している授業に追加し、職業能力(態度、思考、行動、責任等)及び最新の専門知識・技能を修得させる。
 ・最新の実践的な知識・技能を修得させるため企業からの派遣講師による授業(講義・実習)を受講し、その評価を受け、より実践的な人材を育成する。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容
 ※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記
【自動車整備及び整備作業】:企業との打ち合わせ(依頼・内容の検討・日時調整・実施要領・評価)自動車メーカーの販社による新技術講習・特別教育など、教材や車両持込による派遣授業を実施していただく。
【ビジネスマナー】:企業との打ち合わせ(依頼・内容の検討・日時調整・実施要領・評価)職業観・人間力を身に着けるため新入社員教育と同様の内容のグループワーク形式のセミナーを実施していただく。
【体験実習】:企業との打ち合わせ(依頼・日時調整)事前指導・実施・事後指導・報告会・評価 内定先企業にて31日間のインターンシップを実施していただく。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
体験実習	4年次前期に学生の内定先企業にて31日間のインターンシップを行う。企業との打合せ・学生への事前指導の後「点検整備」「総合診断」「故障探求」等の体験の中で実作業を学ぶ。学生は実習レポートを毎日まとめ、指導担当者からの評価・コメントを頂き期間中は担任教員が巡回訪問し、状況把握に努める。終了後はレポート提出、パワーポイントを作成し、関連企業担当者・出身高校の担任を招いて報告会を実施する。	内定先企業:広島三菱自動車販売(株)、山陰スバル(株)、ネットヨタ山口(株)、広島日産自動車(株)、広島マツダ(株)、(株)アンフィニ広島、山口ヨベツ(株)、山口マツダ(株)、(株)ヤナセ、(株)コンクエストなど
整備作業	低圧電気取扱業務 特別教育、各メーカーの自動車販売会社様による技術講習会を受講し最新技術や整備方法等を学ぶ。(運転支援システム、リニアエレクトロニクス、メーカー独自のスキヤンツール、アクチュエータテスト、定期点検整備方法など)	トヨタカローラ広島(株)、広島日野自動車(株)、広島スバル(株)、いすゞ自動車中国四国(株)、(株)広島マツダ、(株)アンフィニ広島、(株)ヤナセ、(株)シュテルン広島
ビジネスマナー	フレッシュマンセミナー「仕事の基本」(グループワーク、5sの重要性、仕事で大切な意識、チームワーク)	株式会社 スズキ自販広島

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針
 本校の教員研修規定において、本校教員に対して、所属する学科の学生が将来就くことが予測される職に係る職務の遂行に必要な知識、技能を修得させるため教職員の能力、資質等の向上を図ることを目的とする。と定められており、企業等と連携した専門分野における技術等の実務および指導力の修得や向上が図ることが出来る内容の研修を学内で組織的に計画を立て、受講した研修内容を教員間で共有し、授業やクラス運営に反映させ研修の成果が上がるよう努める。

(2)研修等の実績
 ①専攻分野における実務に関する研修等
 研修名「日産技術講習会」(連携企業等:日産自動車株式会社)
 期間:令和元年8月5日(月) 対象:教職員全般
 内容:日産先進技術に関する体感型講習
 1. 開発者プレゼンテーション
 2. 先進技術試乗体感(プロパイロット, プロパイロットパーキング, e-POWER 他)
 研修名「第9回 マツダ SKYACTIV 技術セミナー」(連携企業等:マツダ株式会社)
 期間:令和元年8月8日(木) 対象:教職員全般
 内容:新型エンジンの整備性解説/エンジン見取り 他
 新世代マツダコネクテッドサービスについて

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名「令和元年度専修学校各種学校進路指導研究協議会」
(連携企業等:公益社団法人広島専修学校各種学校学校連盟)
期間:令和元年7月2日(火) 対象:進路指導教員
内容:専修学校各種学校の現状について
専門学校卒業生へのインタビューおよび質疑応答

研修名「第23回 教職員夏季研修会」(連携企業等:全国自動車大学校・整備専門学校協会(JAMCA))
期間:令和元年7月30日(火)～8月2日(金) 対象:JAMCA教職員
内容:教育心理, 授業運営方法, コーチング・コミュニケーション技法, グループディスカッションとテーマ発表

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名「日産技術講習会」(連携企業等:日産自動車株式会社)
期間:令和2年12月2日(水), 12月3日(木) 対象:教職員全般
内容:日産先進技術に関する体感型講習
1. 開発者プレゼンテーション
2. 先進技術試乗体感

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名「教職員夏季研修会」(連携企業等:全国自動車大学校・整備専門学校協会(JAMCA))

新型コロナウイルスの影響のため中止

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

・自動車整備科に関係する企業等および保護者・卒業生等の参画による学校関係者評価委員会を設置する。自己点検・評価結果に基づいて教育目標・教育環境など学校運営についての評価や意見を委員より頂き、学校運営の全般について改善及び発展に反映させる。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	職業教育の特色は何か、社会のニーズを踏まえた将来構想を抱いているか等
(2)学校運営	目的に沿った運営方針や事業計画が策定されているか等
(3)教育活動	教育課程の編成・方針等が策定されているか、教育方法の工夫・開発が実施されているか、教職員の指導力や資質向上に努めているか等
(4)学修成果	資格取得・就職率の向上が図られているか等
(5)学生支援	進路・就職、健康管理、各相談に関する体制は整備されているか。保護者及び高等学校との連携が適切か等
(6)教育環境	施設・設備は教育に十分対応できるか。インターンシップ等について体制を整備しているか等
(7)学生の受入れ募集	募集活動は適正に行われているか
(8)財務	中長期的に学校の財務基盤は安定しているか
(9)法令等の遵守	法令及び設置基準が遵守され、適正な運営がなされているか等
(10)社会貢献・地域貢献	
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

・新型コロナ対策について、リモートによる教育方針や具体的な方策を再検討する。
・各業界の人材確保が困難である状況の中、官民の要望や活動も考慮し学生の受け入れ募集を行っていく意識改革が必要であると感
じている。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
相原 寿直	一般社団法人 広島県自動車整備振興会	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	企業等委員
平尾 健吾	トヨタカーラ広島 株式会社	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	企業等委員
竹中 光	伍永通信 株式会社	平成31年4月1日～令和2年3月31日(1年)	企業等委員
大林 泉	広島工学院大学校 在校生保護者	平成31年4月1日～令和2年3月31日(1年)	PTA
岡田 康嗣	岡田自動車 株式会社	平成31年4月1日～令和2年3月31日(1年)	卒業生

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)

URL:<https://www.furusawa.com/kogaku/disclosure/>

公表時期:学校関係者評価委員会開催後

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」に基づいた項目により、教育活動の取組及び学校運営の状況等をホームページおよび学校パンフレットにて情報公開し、企業等および学校関係者など幅広く理解して頂く。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	建学の精神・本校の目的・沿革・学則
(2)各学科等の教育	定員数・資格取得・教育課程
(3)教職員	教職員氏名・資格
(4)キャリア教育・実践的職業教育	インターンシップ
(5)様々な教育活動・教育環境	合宿研修
(6)学生の生活支援	学生食堂・無料送迎バス運行
(7)学生納付金・修学支援	学費・奨学金制度・入学金減免制度
(8)学校の財務	「財務情報の公開」
(9)学校評価	「自己点検評価報告書」「学校関係者評価結果報告書」
(10)国際連携の状況	無し
(11)その他	無し

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物)

URL:<http://www.furusawa.com/kogaku/>

および学校パンフレット・募集要項

授業科目等の概要

工業専門課程 自動車整備科1級自動車整備士コース																
必 修	分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
	選 択 必 修	自 由 選 択							講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
1	○			自動車工学	力学・数学、材料、燃料・潤滑剤、図面、自動車概論、ガソリンエンジン、ディーゼルエンジン、シャシ、電装	1 通 2 前	428.4		○			○		○		
2	○			自動車整備	ガソリンエンジン、ディーゼルエンジン、シャシ、電装、故障原因探求	2 通	253.8		○			○		○		○
3	○			機器の構造取扱	測定機器、整備機器、検査機器	1 通	32.4		○			○		○		
4	○			自動車検査	検査の概要、検査の目的、検査の種類	2 後	27		○			○		○		
5	○			自動車に関する法規	道路運送車両法、保安基準	2 前	25.2		○			○		○		
6	○			工作作業	機械工作作業、手仕上げ工作、ガス溶接作業、アーク溶接作業、研削作業	1 通 2 前	25.2				○	○		○		
7	○			測定作業	測定機器の取扱、保守管理、測定作業	1 前	46.8				○	○		○		
8	○			整備作業	ガソリンエンジン、ディーゼルエンジン、シャシ、電装	1 通 2 通	1231.2				○	○		○		○
9	○			検査作業	検査機器の取扱、保守管理、測定作業	2 後	50.4				○	○		○		
10	○			コンピュータ	コンピュータ実習	1 通 2 通	63				○	○		○		
11	○			ビジネスマナー	一般教養	1 通	36		○			○		○		○
12	○			江田島・三瓶合同研修	合宿研修	1 通 2 通	80.4		○	○			○	○		
13	○			自動車工学	自動車の構造・性能、自動車の力学・数学、電気・電子理論、材料、燃料・潤滑剤、図面	3 通 4 通	99		○			○		○		

14	○		自動車整備	エンジン、シャシ、電装、故障探求、総合診断、環境保全、安全管理	3通 4通	198		○			○		○		○
15	○		機器の構造取扱	整備作業機器、測定機器、検査機器	3通 4通	21.6		○			○		○		
16	○		自動車検査	自動車検査	3後	7.2		○			○		○		
17	○		自動車整備に関する法規	道路運送車両法、保安基準	3後	12.6		○			○		○		
18	○		サービスマネジメント	サービスマネジメント	3後 4前	77.4		○			○		○		
19	○		会社経営知識	会社経営知識	4前	16.2		○			○		○		
20	○		工作作業	手仕上げ作業、機械工作	3前	10.8					○	○	○		
21	○		測定作業	基本計測、応用計測	4前	10.8					○	○	○		
22	○		自動車整備作業	エンジン・シャシ・電装の点検、分解、組立、調整、検査、故障探求	3通	617.4					○	○	○		○
23	○		自動車検査作業	自動車検査作業	3後 4前	25.2					○	○	○		
24	○		体験実習	インターシップ	4前	244.8					○		○	○	○
25	○		評価実習	自動車の点検整備、故障原因探求、総合診断	4通	745.2					○	○	○		
合計						科目	単位時間(単位)								

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
【卒業要件】 1. 各学科・コースの修業年限に達していること。 2. 当該学科・コースの当該年度における出席率が90%以上であること。但し、自動車整備科1級自動車整備士コースの4年次においては、95%以上とする。 3. 当該学科・コースの当該年度における履修すべき授業科目の学年末評定に、すべて「不可」がないこと。 4. 本校の主催する研修(特別活動を含む)をすべて修了していること。 5. 未納金のないこと。		1学年の学期区分	2期
		1学期の授業期間	19週

(留意事項)

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。